

日本のマンドリン音楽 最大の功労者

中野二郎氏の作品 楽しんで

チルコロ・マンドリニスティコ・フロローラ定期演奏会



仙台市のマンドリン合奏団「チルコロ・マンドリニスティコ・フロローラ」の第47回定期演奏会が18日、青葉区の市青年文化センターで開かれる。指揮は合奏団主宰の高橋五郎さん。日本のマンドリン音楽を発展させた最大の功労

18日・仙台

者、中野二郎さん（1902～2000年）の作品を取り上げる。

中野さんは、自ら作曲を手掛けたほか、数多くのイタリヤの管弦楽曲や吹奏楽曲をマンドリンオーケストラのために編曲し、曲目拡大に貢献したことで知られている。

「漁村の一夜」など披露

今回は、中野さんが育てた名古屋市のアマチュアマンドリン合奏団「プレットロ・ロマンティコ」の有志9人が友情出演。チルコロと共演し、中野さん作曲の組曲「漁村の一夜」、中野さん編曲のマネンテ「幻想曲『華燭の祭典』」などを披露する。

チルコロの単独ステージでは、スカルツィーナ「CPOラプソディ」、アレグレッテ「イ短調の前奏曲」を演奏する。

高橋さんは「中野さんは知られざる作曲家という印象が強いが、功績は山田耕柁らの大家にもひけをとらない。彼の自作や編曲を通して、日本の曲やイタリヤらしい曲を紹介したい」と話す。

チルコロは、20代～70代の社会人や主婦ら45人ほどで構成。週1回仙台市内で練習している。

午後2時開演。入場料1000円。連絡先は高橋さん022(221)2479。

定期演奏会に向け練習するチルコロ・マンドリニスティコ・フロローラのメンバー＝仙台市青葉区、同市民会館